

(1) いじめ理解学習

(小学校)

いじめの問題に関する話し合いを通して、その理解を深め、いじめの防止や解決に資する道徳性を養うための学習

「小学校 特別の教科 道徳」 学習指導案 一覧

	主題名（内容項目）	教材名（掲載教科書）	教材の概要
第1学年	ゆうきを出して （善悪の判断、 自律、自由と責任）	やめろよ （日本文教出版1年）	ぴよんこをいじめているこんきちを見て、そのまま通り過ぎようとしたぼんたが勇気を出して「やめろよ」とこんきちに注意する。
第2学年	みんな友だち （友情、信頼）	およげないりすさん （日本文教出版2年 光村図書2年 学研教育みらい2年 教育出版2年 廣済堂あかつき1年）	泳げないりすを仲間はずれにして、島に渡って遊んでいたかめ、白鳥、あひる。かめたちは、その行動を反省し、今度は、りすを背中に乗せて島に行って一緒に遊ぼうとする。
第3学年	なかまを大切に （公正、公平、 社会正義）	同じなかまだから （日本文教出版3年 学校図書3年 廣済堂あかつき4年）	ひろしやとも子は、光夫と組んで競技をすることを嫌がっていたが、よし子からの手紙で仲間はずれにすることが不公平であると気付く。
第4学年	分けへだてをしない （公正、公平、 社会正義）	ひとりぼっちの Ｙちゃん （光村図書4年）	Ｙちゃんに意地悪を始めた「わたし」の行動が広がり、いじめとなる。自分の悪いところを直すからと日記に記し、涙を流すＹちゃん。その姿を見て、「直すのはわたしの方」と心の中で叫ぶ「わたし」。
第5学年	いじめについて考える （公正、公平、 社会正義）	いじめをなくすために （コラム）お話の前に （学研教育みらい5年）	「いやだって気持ち、かっこいい」という宮本亜門さんのメッセージ教材と、「できる方法で助けてあげて」という増田明美さんのメッセージ教材。どちらもいじめがテーマ。
第6学年	いじめを止めるために （公正、公平、 社会正義）	わたしのせいじゃない （日本文教出版6年）	ひとりぼっちで「泣いている子」がいても、みんなが「わたしのせいじゃない」と主張する。傍観者の無関心や無責任が描かれた絵本教材。

■ 留意点

本冊子の指導案は、一つの事例であり、いじめの問題を道徳科の授業で扱う際には、児童の実態を十分考慮して、実施の時期や扱い方を工夫することが大切です。学級の状態によっては、管理職等にも相談する等して、他の先生方と協力して複数体制で授業にあたり、個別の児童の状況把握や支援を行うことも考えられます。また、いじめの問題に関する道徳科の学習は、いじめの防止や解決に資する道徳性を一人一人に養うものであって、この時間に学級等における特定の個人の問題を追及することが目的ではないことに留意する必要があります。

<p>■ねらい 勇気を出して意地悪を注意したぼんたの心情の変化を考えることを通して、正しいと思ったことを進んで行おうとする意欲を育てる。</p>	<p>■いじめの問題に関する指導の観点 こんきちの行動がびよんこをいじめる許されない行為であることを理解させ、それをやめさせようとすることの大切さについて捉えさせる。</p>
--	---

学習指導過程

	学習活動と主な発問	指導上の留意点
導入	1 意地悪ってどんなことですか。意地悪をされるとどんな気持ちになりますか。	・個別の児童の名前が挙がらないように留意する。
展開	2 教材を読んで話し合う。 ○こんきちがびよんこの耳をひっぱっているのを見て、ぼんたはどんなことを思ったのでしょうか。 ○ぼんたは、どうしてそのまま通り過ぎようとしたのですか。 ○通り過ぎようとしていたのに、ぼんたは、どうして「いじわるはやめろよ」と言えたのでしょうか。 ○「いじわるはやめろよ」と言えたぼんたはどんな気持ちでしょうか。 ○こんなときに勇気がでない気持ちは、どうしたら乗り越えられるのでしょうか。	・こんきちの行動がびよんこをいじめる許されない行為であることを確認する。 ・びよんこやこんきちに対して、ぼんた自身についてとそれぞれの観点で考えさせる。 ・「怖いから」という理由に対しては、「怖いからどうしてなのか」等、さらに尋ね、自分自身の勇気のなさにも気付かせる。 ・びよんこやこんきちに対して、ぼんた自身についてとそれぞれの観点で考えさせ、板書にも書き分ける。 ・正しいことができたときのすがすがしい気持ちを感じ取らせる。 ・児童の日常生活と関連付けて考えさせる。 ・ペア活動の後、全体の場で発表させる。
終末	3 今日の学習で学んだことをノートに書いて発表しましょう。	・友だちの発表に対する感想も述べさせるようにする。

板書

注意している場面の挿絵

×いじわる

やめろよ

こわかった。
ゆうきがなかった。

びよんこを
たすけなくちゃ。
こんきちの
いじわるをもう
ゆるせない。
いけないと
きちんというこ
とがだいじ。

びよんこが
かわいそう。
こんきちは
いじわるだ。
ちゅういしたい
けど、いえない。
じぶんたちも
されたら…

いじわるはやめろよ

・ 行ってよかった。すっきりした。
・ もうこれでいじわるをやめてほしい。
・ まわりのことをよくかんがえる。
・ 正しいことはなにかをかんがえる。
・ どうしたらいいかそうだんする。
・ みんなでゆうきを出す。

意地悪をしている場面の挿絵

<p>■ねらい 仲間はずれをしたことを反省するまでの心情の変化について考えることを通して、仲間はずれをせず友だちと仲良くしようとする意欲を育てる。</p>	<p>■いじめの問題に関する指導の観点 仲間はずれにされることの辛さ、また、仲間はずれをしたことの後悔や反省の気持ちに共感させ、仲間はずれがおきる原因とその解決のために大切なことを考えさせる。</p>
---	--

学習指導過程

	学習活動と主な発問	指導上の留意点
導入	1 友だちの仲間に入れてもらえなかったり、ひとりぼっちになったりするとどんな気持ちががすると思いますか。	・個別の児童の名前が挙がらないように留意する。
展開	2 教材を読んで話し合う。 ○「りすさんは、およげないからだめ」と言われたとき、りすはどんな気持ちだったのでしょうか。 ○島で遊んでいるとき、かめ、あひる、白鳥は、どんなことを思っていたのでしょうか。 ○かめの背中にりすを乗せて、みんなで島に行っているとき、みんなはどんな気持ちだったのでしょうか。 ○仲間はずれをせず友だちと仲良くするには、どんなことが大切だと思いますか。	・りすは泳げないから仲間はずれにされても仕方ないことなのか補助発問をし、泳げないりすの問題ではないことを確認する。 ・りすに対する気持ちと、自分たちに関する気持ちとを板書で書き分けて、りすを仲間はずれにしたことの後悔や反省を捉えさせる。 ・みんなで島に行っているときの場面を役割演技し、みんなで仲良くすることの気持ちよさに共感させる。 ・心情面や行動面等考える観点を示す。 ・ペア活動の後、全体の場で発表させる。
終末	3 今日の学習で学んだことをノートに書いて発表しましょう。	・友だちの発表に対する感想も述べさせるようにする。

板書

みなで島に行っている場面
の挿絵

みなで島に行っている場面
の挿絵

りすさんは、およげないからだめ。
の挿絵

みなで遊んでいるかめ、あひる、白鳥の挿絵

みなで島に行っているとき、みんなはどんな気持ちだったのでしょうか。

りすさん、ないていかな。

みなで島に行っているとき、みんなはどんな気持ちだったのでしょうか。

りすさん、ないていかな。

りすさん、ないていかな。

みなで島に行っているとき、みんなはどんな気持ちだったのでしょうか。

りすさん、ないていかな。

りすさん、ないていかな。

<p>■ねらい 仲間として大切にしなければならないことは何かを考えることを通して、仲間どうし公平に接し、よりよい集団を築いていこうとする意欲を育てる。</p>	<p>■いじめの問題に関する指導の観点 個性や能力を理由に仲間はずれやいじめをすることの理不尽さに気付かせ、自分たちのクラスのこと振り返りながら仲間として大切にしなければならないことを考えさせる。</p>
---	--

学習指導過程

	学習活動と主な発問	指導上の留意点
導入	1 クラスの仲間にとって大切なことは、どんなことだと思いますか。	・学級での活動の様子を写真等で紹介しながら思い起こさせる。
展開	2 教材を読んで話し合う。 ○「休んだほうがいいんじゃないか。ともちゃん、どう思う。」とひろしに言われて返事に困ったとも子はどんなことを考えていたのでしょうか。 ○よし子からの手紙を思い出して、はっとしたとも子はどんなことに気付いたのでしょうか。 ○とも子は、どんな思いで「光夫くん、ひろしくん、がんばろうね。」と声をかけたのでしょうか。 ○同じクラスの仲間として大切にしなければならないことは何だと思いますか。また、そのような仲間になるためには、どうすればいいと思いますか。	<ul style="list-style-type: none"> ・光夫が体育を休んだ方がクラスが勝てると思う気持ちと、そんなことはいけないと思う気持ちとの葛藤を捉えさせる。 ・個性や能力によって、仲間はずれやいじめをしてはいけないことに気付かせる。 ・光夫に対する思いも引き出すようにする。 ・光夫が参加すれば、負けてしまう可能性が高いのに、それでもいいのかと揺さぶりの補助発問をする。 ・自分たちのクラスにも置き換えて考えさせ、グループでの意見交換の後、全体の場で発表させる。 ・心情面や行動面等考える観点を示す。
終末	3 今日の学習で学んだことをノートに書いて発表しましょう。	・友だちの発表に対する感想も述べさせるようにする。

板書

同じなかまとして

- ・一人一人を大切に。
- ・なかまはずれやいじめをしない。
- ・なかまどうし助け合う。
- ・相手の気持ちを考える。
- ・なかまはずれやいじめがあったら、注意する。先生に相談する。
- ・一人ぼっちの人がいたら声をかける。

三人で競技
している挿
絵

なかまはずれ
や弱いもの
いじめはい
けない。
そんなことを
したら、光夫
をきずつけ
る。

手紙を読
んでいる
とも子の
挿絵

勝ちたい気持
ちもあるけ
れど...

返事に困
るとも子
の挿絵

同じなかまだから

そんなことは
いけない。

光夫が休んだ
方が勝てる。

<p>■ねらい いじめる側、いじめられる側の心情を想像し、いじめについて考えることを通して、誰に対しても公平に接し、いじめの起こらない学級をつくっていかうとする意欲を育てる。</p>	<p>■いじめの問題に関する指導の観点 いじめる側、いじめられる側の心情を想像させ、いじめが起きる状況やその理不尽さを捉えさせる。学級づくりと関連させて指導にあたり、いじめの起きない関係を考えさせる。</p>
--	---

学習指導過程

	学習活動と主な発問	指導上の留意点
導入	1 仲間はずれや悪口等の意地悪をしたとき、反対にされたとき、どんな気持ちになるのか想像してみる。	・発表は求めないで、少しの時間、沈黙の中で想像させる。
展開	2 教材を読んで話し合う。 ○意地悪はやめられないという「わたし」の考えを聞いて、どうしてこのようないじめが起こると思いましたか。また、どうしてやめられないと思う状況になるのだと思いますか。 ○Ｙちゃんは、この日記をどんな気持ちで書いたと思いますか。日記を読んで、いじめについてどんなことを思いましたか。 ○「直すのはわたしのほう」という「わたし」の心の中には、どんな思いがあるのでしょうか。 ○このあとの「わたし」に必要なことはどんなことだと思いますか。	・「わたし」「みんな」の観点から考え、一人の理不尽な行動が同調圧力を生み、いじめになっていったことを捉えさせる。 ・本当にやめられないことなのか補助発問し、止めるきっかけについて考えさせる。 ・Ｙちゃんの辛さを想像させるとともに、こうしたいじめが人の心を深く傷つける行いであることを確認する。 ・やめられないと思っていたときと、今とを比べて「わたし」の心の変化は、どうして起こったのか掘り下げて考えさせる。 ・心情面や行動面等考える観点を示す。
終末	3 いじめの起こらない学級をつくっていくために大切だと思ったことをノートに書いて発表しましょう。	・グループでの意見交換の後、全体の場で発表させる。友だちの発表に対する感想も述べさせるようにする。

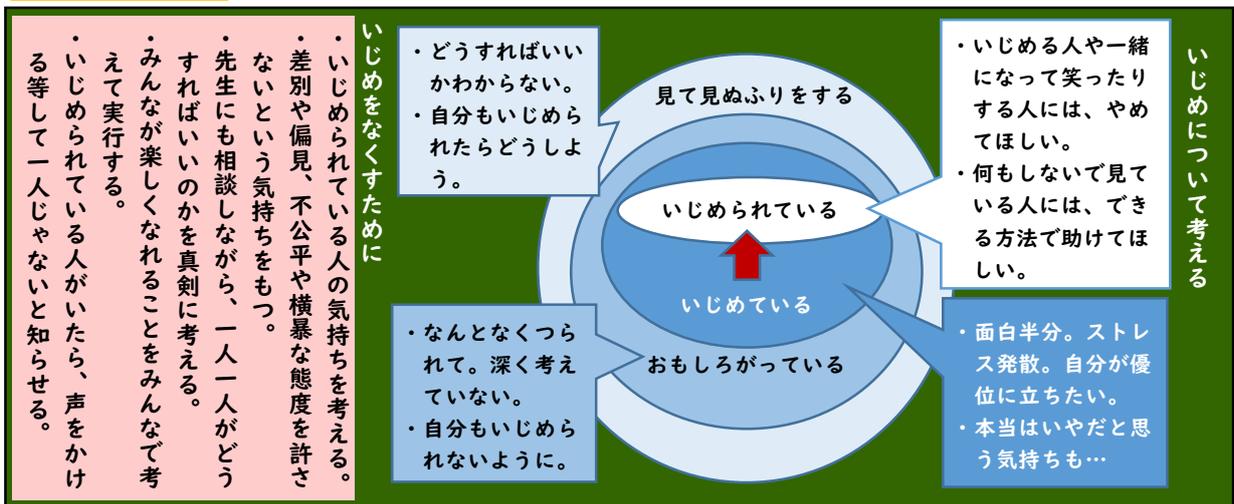
板書

<p>■ねらい いじめをめぐるそれぞれの思いを想像し、いじめをなくすために大切なことを考えることを通して、公平な態度で接し、集団における正義を実現していこうとする態度を育てる。</p>	<p>■いじめの問題に関する指導の観点 いじめの四層構造（被害者、加害者、観衆、傍観者）を示し、多面的・多角的な視点でいじめをなくすためのアプローチについて考えさせる。</p>
--	--

学習指導過程

	学習活動と主な発問	指導上の留意点
導入	<p>1 コラム「お話の前に」を読んで、自分がAさん、または、Cさんならどうするか考え、グループで意見交換する。</p> <p style="text-align: center; border: 1px solid black;">いじめについて考える</p>	<p>・差別や偏見、不公平な態度がいじめにつながることに気付かせ、いじめについて自分の事として考えることを学習課題として提示する。</p>
展開	<p>2 教材を読んで話し合う。</p> <p>○宮本亜門さんのメッセージを読んで、最も心に残ったことは、どんなことですか。どうしてそれが心に残ったのですか。</p> <p>○増田明美さんのメッセージを読んで、最も心に残ったことは、どんなことですか。どうしてそれが心に残ったのですか。</p> <p>○いじめられている、いじている、おもしろがっている、見て見ぬふりをするそれぞれの立場の気持ちは、どのようなものなのでしょう。</p>	<p>・二つのメッセージそれぞれについて、グループで意見交換させる。友だちの意見を聞いて思ったことを全体場で発表させる。</p> <p>・二つのメッセージには、いじめのそれぞれの立場が描かれていることを、いじめの四層構造を示して確認する。</p> <p>・それぞれの立場の思いを想像し、個人でワークシートに書いてから、グループで意見交換し、全体場で発表させる。</p>
終末	<p>3 それぞれの気持ちを踏まえて、いじめをなくすためにはどんなことが大切だと思うか、どんなことをすればよいと思うか話し合ってみましょう。</p>	<p>・それぞれの立場へのアプローチをイメージさせるようにして考えさせる。</p> <p>・グループでの意見交換の後、全体場で発表させる。</p>

板書



■ねらい

いじめの問題とその防止や解決策について考えることを通して、いじめの問題に真剣に向き合い、一人一人の人権を大切にして集団における正義を実現していこうとする態度を育てる。

■いじめの問題に関する指導の観点

いじめを止めるためには、いじめはいけないうという概念的な理解に留まらず、関わる一人一人が自分たちの問題として真剣に考えることが大切であるということに気付かせる。

学習指導過程

	学習活動と主な発問	指導上の留意点
導入	1 いじめについて、どう考えていますか。	・個別の児童の名前が挙がらないように留意し、おおよその理解を確認する。
展開	2 教材を読んで話し合う。 ○この状況の問題は何だと思えますか。 本当に、わたしのせいじゃない？ ○泣いている子は、どんな気持ちでいると思えますか。また、その思いに、周囲の人はどうして気付かないのでしょうか。 ○この集団の一人として、いじめを止めるためにあなただったら、①～⑦の人にどのように話しかけますか。 ○「本当に、わたしのせいじゃない？」この言葉に、あなたは、どう答えますか。わけも考えてください。	・グループでの意見交換の後、全体の場で発表させる。当事者意識の欠如に着目させ、学習課題を提示する。 ・いじめられる側の辛さを想像させる。いじめられる側の気持ちに対する無関心がいじめを助長していることを捉えさせる。 ・どの人に対して話かけるのかを選んで考えをワークシートに書かせる。ペアで意見交換してから、全体の場で発表させる。 ・なぜそうするのかも尋ねる。 ・「始めたのはわたしじゃない」「みんながやったから」「その子のせい」という言い分に対してどう答えるのか尋ねる。
終末	3 いじめを止めるためにどんなことが大切だと思えましたか。ノートに書いて発表しましょう。	・いじめはいけないと分かっているにもかかわらず止められないのはなぜか補助発問し、関わる一人一人の当事者意識の必要性に気付かせる。

板書

本当に、わたしのせいじゃない？

泣いている子の挿絵

・助けてほしい。止めてほしい。

・誰も自分のことを考えてくれない。

① ・最初にしたのはなくても、泣いているその子を助けようと思わないのは、一人一人の問題だと思う。

② ・誰かに相談することだって大切。

③ ・人のせいにしても解決しない。

④ ・少しだけやってたいたいわけじゃない。自分だったらと想像して。

⑤ ・みんな個性がある。おもしろくないとか変わっていることがいけないことではない。そんなことを理由にするのは勝手な考え方。

⑥ ・本人が言えないときは、他の人が先生に相談してみることも大事。

⑦ ・その子に声をかけることで、つらい気持ちが救われるんだよ。

・いじめは、関係する一人一人が止める力をもっている。無関心がいじめられている人を傷つけている。

・自分たちの問題という意識をもって真剣にいじめに対処することが大切。

・人の痛みを考え、一人一人の人権を大切にしていく。

(1) いじめ理解学習

(中学校)

いじめの問題に関する話し合いを通して、その理解を深め、いじめの防止や解決に資する道徳性を養うための学習

「中学校 特別の教科 道徳」 学習指導案 一覧

	主題名（内容項目）	教材名（掲載教科書）	教材の概要
第1学年	いじめのない集団に （公正、公平、 社会正義）	さかなのなみだ （コラム）「いじめ」って 何？ （日本文教出版1年）	魚類学者でタレントのさかなクン作 「さかなのなみだ」からの教材文。 魚の世界でも狭い水槽の中で一匹を 攻撃する習性があることを例にしな がら自身の中学生のときの体験を紹 介している。いじめられていた子ど もと釣りを一緒にしたエピソードと ともに、小さなカゴの中で誰かをい じめても楽しい思い出は残らない、 広い世界へ出てみようというメッセ ージを投げかけている。
第2学年	いじめを止めるには （公正、公平、 社会正義）	君、想像したことある？ （廣済堂あかつき2年）	タレントの春名風花さんが小学校6 年生のときに書いたメッセージ教 材。自身の体験をもとに、いじめる 側、そしていじめられた側の気持ち を描きつつ、いじめは、いじめる子 どもに想像力をもってもらうことで しか止まらないと訴えかける。
第3学年	いじめをしない気持ち （自主、自律、 自由と責任）	ある日の午後から （東京書籍3年）	主人公のひかるは、友だちの沙希に 冷たい態度をとられたことに腹を立 て、SNSにその出来事を書き込む。 あっという間に情報が広がり、沙希 は孤立してしまう。そのSNSを見た 母から「これはいじめだ」と言われ るが、「普通のことだ」とひかるは主 張する。その夜、見た夢をきっかけ に、ひかるは自身の行動の結果と責 任にやっと気付く。

■ 留意点

本冊子の指導案は、一つの事例であり、いじめの問題を道徳科の授業で扱う際には、生徒の実態を十分考慮して、実施の時期や扱い方を工夫することが大切です。学級の状態によっては、管理職等にも相談する等して、他の先生方と協力して複数体制で授業にあたり、個別の生徒の状況把握や支援を行うことも考えられます。また、いじめの問題に関する道徳科の学習は、いじめの防止や解決に資する道徳性を一人一人に養うものであって、この時間に学級等における特定の個人の問題を追及することが目的ではないことに留意する必要があります。

<p>■ねらい いじめの原因やいじめのない集団づくりのために大切なことについて考えることを通して、誰に対しても公平に接し、集団における正義を実現していこうとする態度を育てる。</p>	<p>■いじめの問題に関する指導の観点 教材文といじめの構造が描かれたコラムから、いじめの原因やそれぞれの立場の気持ちについて想像させ、いじめのない集団づくりのために大切なことを考えさせる。</p>
---	---

学習指導過程

	学習活動と主な発問	指導上の留意点
導入	1 「いじめ」とは何か、言葉で説明するとどういうことだと思いますか。	・個別の事例ではないことに留意し、まずは、生徒の意見を聞く。その後、コラム「『いじめ』って何？」をもとにその定義を伝える。
展開	2 教材を読んで話し合う。 ○心に残ったところは、どこですか。理由とともにペアで意見交換しましょう。 いじめのない集団をつくるためには？ ○なぜ、いじめが起きると思いますか。 ○いじめの構造図から、それぞれの立場の人の気持ちを考え、あらためていじめがなぜ起きるのか考えてみましょう。 ○いじめのない集団をつくるために、大切だと思うことはどんなことですか。	・範読の際に、心に残ったところに線を引くように伝える。 ・全体の間でも発表させてその意見から、学習課題を設定する。 ・グループでの意見交換の後、全体の間で発表させる。 ・加害者や観衆は、被害者の気持ちを考えていないのか、また、その気持ちに気付いてもやめられないのか補助発問をし、構造図を見ながら、あらためてなぜいじめが起きるのかを考えさせる。 ・教材文やコラムを参考にして考えさせる。いじめが起きないようにするためには、また、いじめが起きたときに解決するためにはといった観点で考えさせる。
終末	3 今日の学習で学んだことをノートに書いて発表しましょう。	・友だちの発表に対する感想も述べさせるようにする。

板書

さかなのなみだ
いじめとは

- ・学級等一定の人間関係の中で
- ・心理的な苦痛や圧迫、暴力、危害
- ・受けた生徒が心身の苦痛を感じている

いじめのない集団をつくるためには

いじめの構造

なぜ？
ストレス発散、優越感、面白半分
周囲が他人事と思っている
狭い世界でいばって心が狭い。本当に楽しいことや広い世界を知らない

被害者 (いじめられている)

- ・怖い、あきらめ、孤独

加害者 (いじている)

- ・相手がおびえているのが面白い。嫌いだから。

観衆 (面白がっている)

- ・空気に合わせて
- ・適当なひまつぶし

傍観者 (見て見ないふり)

- ・自分がいじめられたら…
- ・関わりたくない

仲裁者 (止めようとする)

- ・助けたい、憤り

- ・ちゃんと話がでてる関係をつくる。
- ・一緒に楽しみ、笑い合えるクラスにする。
- ・それでよいかしっかりと自分で考える。
- ・仲裁者を増やす。いじめられている人に声をかける。大人に相談する。

■ねらい

いじめを止めるために必要なことについて考えることを通して、思いやりや勇気等いじめのない集団を築いていくための様々な要素に気づき、集団における正義を実現していこうとする態度を育てる。

■いじめの問題に関する指導の観点

いじめを止めるためには、想像力や思いやり、勇気等様々な要素が必要である。正義が実現するいじめのない集団を築いていくためには、そうした様々な要素が必要であるということについて考えを深めさせる。

学習指導過程

	学習活動と主な発問	指導上の留意点
導入	1 春名風花さんについての紹介を聞く。	・タレントとして子どもの時から活動していること等を伝える。
展開	2 教材を読んで話し合う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">いじめを止めるには</div> ○「いじめは、いじめる子どもに想像力をもってもらふことでしか止まらない。」という意見について、想像力をもつことで、なぜいじめが止まるのだと思いますか。 ○あなたは、いじめを止めるために、どんなことが必要だと思いますか。グループで意見交換をしてみましょう。そして、そうすることでどうしていじめが止まるのかを話し合ってみましょう。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">いじめを止めるために必要なのは、</div> <div style="border: 1px solid black; height: 15px; width: 100%;"></div> そうすることで、 <div style="border: 1px solid black; height: 15px; width: 100%;"></div>	・グループでの意見交換の後、全体の場で発表させる。 ・ノートに書いてからグループで意見交換をさせる。解決になっているか、実現可能か、実現のためのポイントは何かといった観点でそれぞれの意見について吟味しながら話し合わせる。 ・出された意見を全体の場で発表させる。 ・他のグループとの共通点や聞いてみたいこと、他のグループの意見でいいなと思ったことについて全体で意見交換させる。
終末	3 今日の学習で学んだことをノートに書いて発表しましょう。	・今日、考えたことが学級で実現されているのかを振り返って書かせるようにする。

板書

君、想像したことある？

いじめを止めるには

いじめは、いじめる子に想像力をもってもらふことでしか止まらない。

・人の痛みが気づく。

・人を大切に思う人の気持ちに気づく。

・誰もが大切にされるべき存在だということに気づく。

先生や親に言うこと

いじめられている子どもの味方になる

止めるように言う勇気

不公平や差別がおかしいと思う気持ち

・いじめられている人を助けられる

・できるだけ多くの人で

本当にそれでいいのかと考え直す力

立場を変えて考えてみる

いじめなんてくだらないと思わせる

雰囲気、学級の明るさ・楽しさ

・いじめる行為がなくなっていく。

陰湿な環境が変わる。

・普段から大切に

団結・協力、思いやり、勇気、明るさ、思慮・意志、正義

みんなで笑える学級

<p>■ねらい ひかるの行動の問題点と気付きについて考えることを通して、行為の結果や責任を自分自身でよく考えて行動しようとする態度を育てる。</p>	<p>■いじめの問題に関する指導の観点 SNSをめぐってのいじめに関する問題である。ネット上では、直接相手が見えないことから行動がエスカレートしていじめとなることがある。それを防ぐための一人一人の責任ある行動について考えを深めさせる。</p>
--	---

学習指導過程

	学習活動と主な発問	指導上の留意点
導入	1 SNSのよさとトラブルについて考える。	・『私たちの道徳』(文部科学省発行)の「情報社会の光と影」のページ等を紹介する。
展開	2 教材を読んで話し合う。 ○ひかるはどんな気持ちでSNSに書き込みを続けているのでしょうか。また、返信をもらってどう思っていたのでしょうか。 ○「こんな普通」というひかると「これはいじめ」という母。それぞれどんな思いからそう言っているのだと思いますか。 ○ここまでの状況になった問題は何だと思いませんか。 ○窓の外の夜の風景をながめているとき、ひかるはどんなことを考えていたのでしょうか。	・教材の前半だけを読んで考えさせる。 ・「ひかるは、被害者なのか」と問い返し、沙希の様子も捉えさせて状況を整理する。 ・グループでの意見交換の後、全体の場で発表させる。 ・「広めた人が悪くて、ひかるには何の問題もないのか」と問い返して問題を捉えさせる。 ・この問題の解決方法を想像させてから、教材の後半を読んで考えさせる。 ・最初の時の思いが本当に消えるのか、最初の時との違いは何か補助発問をして、ひかるの気付きについて考えさせる。
終末	3 いじめをしないと思う気持ちをもつために大切なことは何だと思いませんか。ノートに書いて発表しましょう。	・本時の学習を踏まえて考えさせる。 ・情報機器の活用についての注意も促す。

板書

ある日の午後から

ひかるの挿絵

- ・沙希が最初、冷たい態度だったんだから、沙希が悪い。
- ・自分は被害者。みんな私の味方でよかった。
- ・沙希をこらしめなくちゃ。

母

これはいじめ

- ・ネットの影響を慎重に考えるべき。
- ・ネットでは、相手が直接見えないので行動がエスカレートする。
- ・自分がしたことを反省していない。
- ・相手のことを考えていない。

問題

- ・ネットでは、相手が直接見えないので行動がエスカレートする。
- ・自分がしたことを反省していない。
- ・相手のことを考えていない。

いじめをしない気持ち

- ・自分の行動の結果を想像し、よく考える。
- ・困ったことがあれば、それをどうやって解決すればよいか冷静に考える。
- ・ネット上も含めて責任を考えて行動する。
- ・自分の行動を俯瞰してとらえる。立場を変えて考える。相手の気持ちを想像する。

ひかるの挿絵

- ・母と沙希の涙から、自分の行動の問題と相手の気持ちに気付いた。
- ・責任に初めて気づいた。

(1) いじめ理解学習
(高等学校)

主題名：いじめのない楽しいクラスをつくらう

「高等学校 特別活動 ホームルーム活動」

<p>■ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いじめは、相手の心や体を傷つける行為であることを理解する。 ・いじめかどうかの判断は、いじめを受けた生徒の立場に立って行われることを理解する。 ・「いじめられる側にも問題がある」という考え方について、問題点を指摘できる。 	<p>■いじめの問題に関する観点</p> <p>いじめはよくないと言っても、生徒にとっては漠然とした理解にとどまると思われる。いじめの構造や定義について学習することで理解を深め、いじめのない楽しいクラスをつくっていくための実践力につなげる。</p>
---	--

学習指導過程

	学習活動と主な発問	指導上の留意点
導入	1 居心地よいクラスとはどういうクラスか考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・何人かに発表させる。 「みんなが仲がよい。」「みんなが協力できる。」「いじめがない。等」
展開	2 いじめの定義について考える。 3 いじめの構造について考える。 4 いじめを生まないための行動宣言	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめはどのようなことか、数人の生徒に発言させる。 「無視する」、「悪口を言う」、「暴力をふるう」等の意見を引き出す。 ・いじめの定義について説明し、「心理的」、「物理的」ないじめについて分類し、理解させる。 ・被害者にとっては、加害者、観衆、傍観者のいずれの行動も大変な苦痛であることを認識させる。 ・いじめに関与している人だけの問題ではなく、関与していない第三者も含めた全体の問題であることを理解させる。 ・グループで、いじめを生まないために自分たちができることについて考え、発表させる。 「相手の立場に立って発言する。」「コミュニケーションを積極的にとる」等
終末	5 いじめを受けたとき、いじめを見聞きした時の対応について確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめを受けたときや、見聞きした時は、抱え込まず、相談することを伝える。

参考

いじめの定義（いじめ防止対策推進法 第2条）

児童等に対して、当該児童等が在籍する学校に在籍している等、当該児童等と一定の人的関係にある他の児童等が行う心理的又は物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものを含む。）であって、当該行為の対象となった児童等が心身の苦痛を感じているものをいう。

いじめの構造

